

# あなたと市議会

12月 定例会

NO. 57

3月

平成31年1月15日号

9月

6月



## CONTENTS

12月定例議会の概要	2~3
一般質問	4~9
常任委員会・分科会審査報告	10~12
先進地から学ぶ	13

Y8サミット創快横手市議会レポート	14~15
議会報告会レポート・議場へようこそ	16~17
シリーズ Y8・議会の主な動き	18

賛否が分かれた議案と審議結果

●この他の議案は全員賛成により可決されました。  
○：賛成 ●：反対 ※齋藤光司議長は採決に加わりません。

案件名	審議結果	議決結果		
		賛成	反対	棄権
福祉灯油の実施についての陳情	採択	5	22	4
道路の拡幅とガードレール設置についての陳情	採択	5	22	4
横手公園スキー場を廃止しようとする内容の横手市都市公園条例の一部を改正する等の条例	否決	19	2	20
新風の会	賛成	5	22	4
	反対	19	2	20
	青山 豊	●	○	●
	加藤 勝義	●	○	●
	奥山 豊和	●	○	●
市民の会	賛成	5	22	4
	反対	19	2	20
	佐藤 誠洋	●	○	●
	高橋 聖悟	●	○	●
	木村 清貴	●	○	●
さががけ	賛成	5	22	4
	反対	19	2	20
	山形 健二	●	○	○
	大日向香輝	○	○	○
	菅原亀代嗣	●	○	●
新政会	賛成	5	22	4
	反対	19	2	20
	菅原 正志	●	○	●
	齋藤 光司	-	-	-
	菅原 恵悦	●	○	●
日共産党	賛成	5	22	4
	反対	19	2	20
	寿松木 孝	●	○	●
	播磨 博一	○	○	●
	塩田 勉	●	○	●
公明党	賛成	5	22	4
	反対	19	2	20
	佐々木喜一	○	○	●
	遠藤 忠裕	●	○	●
	小野 正伸	●	○	●
みらい	賛成	5	22	4
	反対	19	2	20
	佐藤 清春	○	○	●
	佐藤 忠久	○	●	●
	鈴木 勝雄	●	○	○
新緑会	賛成	5	22	4
	反対	19	2	20
	立身万千子	●	○	○
	土田百合子	●	○	●
	高橋 和樹	●	○	●
本間 利博	●	○	●	

●陳情の審査結果●

陳情5件が審査され、次のような結果になりました。(敬称略)

- 採 択**
- 道路の拡幅とガードレール設置について (台所町町内会 会長 月澤 貞男)
  - 安全・安心の医療・介護の実現と夜勤改善と大幅増員を国に求めることについて (秋田県医療労働組合連合会 執行委員長 渋谷 一)
  - 全国を適用地域とした看護師の特定最員の増設を国に求めることについて (秋田県医療労働組合連合会 執行委員長 渋谷 一)
  - 75歳以上の後期高齢者医療自己負担を2割にしないことを国に求めることについて (秋田県社会保障推進協議会 会長 渡辺 淳 外1名)
- 不 採 択**
- 福祉灯油の実施について (横手生活と健康を守る会 会長 平塚 美佐子)

議会の  
意思は?

理解を求める努力をしたのか?  
●再開にかかる費用と、土地を返却するために必要な原状復旧費用についてのコスト比較は?  
●天下森スキー場へ集約するにあたり、混雑緩和等の対応と、代替案とする赤坂総合公園(仮称)スノーパークの具体的構想は?  
本間利博議員より反対の立場で、「FM計画の意義や趣旨には賛同しており、

いながら理解を得ていくプロセスが必要で、市民不在の計画となつてはならない。  
3年前倒しでの廃止提案は、地域住民や利用者に対して根拠と経緯の説明が不足し、十分な理解が得られていない。市のスキー場統廃合のために、施設の検討や準備も行われないまま廃止だけを先行させるのは、スポーツを振興する市の姿勢にそぐわず市民の不信を募らせることに繋がる」との討論がありました。  
採決の結果、賛成5、反対19(欠員1、議長除く)で否決されました。  
(奥山 豊和)

議案pick up

- 教育委員会委員の任命  
任期満了となる加賀谷長吉氏の再任に同意しました。
- 行政組織条例の一部改正  
平成31年4月より、市役所組織が一部変更となります。  
●「総務部」と「総合政策部」を「総務企画部」と「財務部」に再編。  
●「市民生活部」と「健康福祉部」を「市民福祉部」に統合。  
●「まちづくり推進部」所属の「スポーツ振興課」と「生涯学習課」を「教育委員会」へ移管。
- 消防団設置条例等の一部改正  
現在8地域に分かれている消防団が、平成31年4月より一つに統合されます。

横手市議会議員政治倫理審査会を設置

山形健二議員は、12月4日の一般質問において、市に対して行う契約に関し、議員の発言は対外的な影響力を持つと受けとられる恐れがある発言をしました。また、自らの例を引合いに出し質問したことは、自己の利益につながる質問と誤解される恐れがあり、これらの発言は、横手市議会議員政治倫理条例第3条に抵触する疑いがあると認められるとして、12月10日に10名の議員から議長に対し審査請求書が提出され、翌12月11日付で政治倫理審査会が設置されました。



横手市都市公園条例の一部改正

議案審査の  
ポイントは  
ここ!

●スポーツ関係団体等の意見を聴取したとのことだが、広く市民に対し説明し

提案理由

昨年7月の大雨により斜面が崩落し、ゲレンデとリフトが被災するなど営業休止となっている横手公園スキー場。再開には、二次災害を防ぐため敷地全体の調査が必要で、復旧工事には多額の費用と時間を要し、横手市財産経営推進計画(FM計画)において3年後の廃止予定となっていることなどを総合的に判断し、前倒しにより今年度で廃止することとした。

可決

「よって農業創生大学事業」

横手市 園芸振興拠点センター設置 条例に附帯決議

POINT!

附帯決議とは?  
委員会や本会議で議案を議決する際に、その案件につけられる意見又は要望の決議のこと。法律上の効果は伴わない。

議案第100号「横手市園芸振興拠点センター設置条例」に対する附帯決議

よくて農業創生大学事業は、農業者の所得向上と担い手の確保、育成を目的に、横手市が地方創生交付金などを活用しながら、計画も含め約12億円の巨額の公費を投じて研修施設や栽培実証ハウス、6次産業化支援施設などの整備に取り組んでいる事業である。

日本一の複合農業産地を目指す横手市にとって、施策の核となる重要な事業であり、内外からの関心も高い事業であるが、今定例会に上程された、旧大雄中学校跡地で整備を進めている横手市園芸振興拠点センターの設置条例の審議において、来年4月の施設稼働後の運営方法について、次の内容について準備不足の懸念を払拭するには至らない点があった。

1点目は、6次産業化支援施設において、施設として営業許可が取れる見込みが立っていないという点である。6次産業化へのトライアル施設という位置付けであるならば、個人での営業許可を持たない人が初めて加工に取り組もうとした際、試作品の市場での評価を掴むため、施設として販売が可能にする必要があるのではないか。法的なものを含めて課題があるとの事だったが、農業者が6次産業化に手応えを感じるためには必要な条件であると考えた。

2点目は、園芸振興拠点センターの稼働により期待できる具体的な戦略やその取り組みの構想が乏しいと感じたことである。農業産出額日本一を目指すための具体的な手段、手法を含めたアクションプランを早急に示す必要があると考えた。

以上のことから、議案第100号「横手市園芸振興拠点センター設置条例」の可決にあたり、以下の事項について取り組むことを求めるものである。

1. 6次産業化支援施設における加工品を施設として販売できるように、営業許可の取得の手法について調査研究すること。
2. 農業産出額日本一を目指すためのアクションプランは、農林部・商工観光部の連携がきちんと見えるような素案をできるだけ早期に示し、議会のほか関係団体等との意見交換を十分に行って策定すること。

以上、決議する。  
平成30年12月12日 横手市議会

12月定例議会は、11月27日から12月12日までの日程で開催されました。市民生活に密着するさまざまな議案審査の中から、特に注目する内容について取り上げます。



会議資料と審議結果はこちらからご覧いただけます

否決  
議論が尽くされていない  
横手スキー場廃止案に疑問

# ココが聞きたい! 一般質問

## 11人の議員が聞いた!!

12月3～5日は一般質問が行われ、11人の議員が市民の皆さんの生活にかかわる行政全般について質問をしました。

一般質問には、一括質問一括答弁方式と一問一答方式の質問方法があり、議員はどちらかを選んで質問を行っています。

### 一括質問一括答弁方式

議員がすべての質問項目を演壇で一括して質問し、その後、市長や教育長が演壇でその質問項目すべてに一括して答弁をします。

再質問は、議員は質問席で行い、市長側は自席で答えます。



### 一問一答方式

議員は質問席で質問項目ごとに順番に質問し、市長側は自席で答えます。

QRコードを読み取ると、録画をご覧いただけます。

## Q 市民共同のまちで人口減少に歯止めを

**A** 担い手となる人材の確保が課題

**問** 人口減少克服のための地方創生事業の中間総括を問う。

**答** 移住定住世帯は平成29年度末で目標の約2倍の33世帯、新規就農者数では150人の目標に対し、同年度末で124名となっている。婚姻数や出生数については減少傾向に歯止めがかかっている。

**問** 共助組織等、市民参加の先進例に学び、さらに発展させるため、総務省による集落支援員や地域おこし協力隊の募集を再度提案する。

**答** 集落支援員制度は、地域の実情に詳しく、課題解決に関して知見のある人材が、住民の皆さんと一緒に必要とされる施策につなげようとするものであり、地域活性化に貢献する。集落の意向も確認しながら検討していく。地域おこし協力隊については、設置要綱などを検討中であり、来年度には体制を整えられるよう準備を進める。



共助組織「八王寺三区結いの会」による雪よせ作業

**問** 各地区会議単位で人口の1%増を目指すことを提案する。そのために公民館や地区交流センターに職員を配置し、住民の活動支援が必要であり、地域局を強化充実するべきと考えるがどうか。

**答** 地区住民や移住者支援の一助として、地区会議や地区交流センターの活動がある。地区会議における職員地区担当制度のもと、職員が行政と地域の橋渡し役となるように地域活動に関わることを促進する。地域局の職員を増員配置することは難しい。

立身 万千子 議員



●横手駅東口市街地再開発事業について

**問** 9月議会の一般質問の答弁で、「議会の意見を聞き、市民の皆様には説明を重ねていきたい」と話しているが、3カ月経過した現在の進捗状況について伺う。

**答** まちづくり研究会では、権利者の意向が固まりつつあり、施設規模や配置案の精査が進んでいる。年内には検討状況を会員の皆様へ報告し、来年度の準備組合設立に向け進めることとしている。また、「横手駅前まちづくりワークショップ」を開催し、駅前に必要な施設について意見交換を行っている。

**問** この事業の構想も、市の考える公益施設の整備についても「にぎわいの創出」が大前提だ。駅前の一等地を活用して可能な「にぎわいの創出」とは何なのか。また、



駐車場の狭さが課題となっている築34年の横手図書館

未だに見えてこない公益施設の整備について市長の考えを伺う。

**答** 「にぎわい」とは人が集い、人が交流し、情報やモノが流通することにより経済的にも社会的にも活性化が図られている状態だ。民間事業者が整備する施設と相乗り効果をもたらす公益施設の整備を目指す。候補として、図書館機能を核とした複合施設を検討しており、「人・企業を成長させる施設・空間」をコンセプトに定め、市民の皆様が成長する機会を得られる複合施設としたい。

**A** 人・企業を成長させる複合施設をめざしたい

Q 図書館の移転で「にぎわい」が創出できるのか



高橋 和 樹 議員



## Q 保健師・ケアマネジャー等の配置不足の懸念はないか

**A** 適正な職員配置を目指して対応する

Q 保健師・ケアマネジャー等の配置不足の懸念はないか

**問** 組織機構改革について  
**問** 市内の一部地域では、すでに高齢化率40%を超える状況にあり、高齢者のみの世帯等の支援についても課題が山積している。今後の地域包括支援センターの在り方や、専門職の社会福祉士・主任ケアマネジャー・保健師等の配置不足が懸念されるが、市の考えを伺う。

**答** 介護保険における総合事業や認知症施策の強化などにより、保健師を含めた専門職の業務量が増加していることから、適正な職員配置を目指すし、さまざまな対応をとっていく。

**問** 地域局は、市民にとって最も身近な存在で、相談窓口でもあり、防災の視点からも必要不可欠である。人員削減は避けるべきだが、その在り方についての見解は。

**答** 引き続き8つの地域庁舎を設置するが、将来的に経営資源が厳



十分な専門職員の配置が望まれる地域包括支援センター

しくなることから、本庁、地域局に関わらず、事業の見直しや職員数のさらなる縮減は避けられない。

●中学生海外派遣事業について

**問** 外国語教育の拡大や国際化が進む中で異文化に対する理解を深めるため、当市でも中学生の海外派遣事業を取り入れてはどうか。

**答** 教育委員会では、現在検討の段階にはないが、今後の外国語教育の充実、人材や機会の有効活用を図りながら当市の海外交流の進展も見極めつつ、グローバル人材の育成につなげる。

土田 百合子 議員





本間利博議員



Q 横手公園スキー場廃止の説明は丁寧に行ったのか

A 地域への説明が足りなかった

問 横手市財産経営推進計画を進めるべきだが、個別の案件は丁寧な説明が必要だ。横手公園スキー場の廃止が3年前倒しで提案されたが、地区住民や利用者にとどのよう説明を行ったのか伺う。

答 昨年の大雨で甚大な被害を受け、復旧には相当な費用と時間がかかるため断念せざるをえないものである。地域への説明が足りなかった。



横手公園スキー場での授業の様子(平成29年度 横手北小学校)

問 「よこて農業創生大学校」を予定しているが、横手市の農業振興のためには若い人が学べる専修学校が必要と考えるが所見を伺う。

答 農業者の所得向上と担い手の確保育成を目的に、実践的な研修と講習に特化した内容であるため、専修学校等は予定していない。

問 6次産業化支援は産学官が連携して支援する組織が必要と考えるが、取り組みについて伺う。

答 加工技術や商品化への指導助言を行い支援していく。今後、関係団体と体制づくりを進める。



奥山豊和議員



Q 地域局を縮小するのではなく権限を持たせるべきだ

A 本庁の人数を減らせれば前に進めなくなる

問 組織機構再編の第一案として地域局を廃止する方向性が唐突に示されたことから、現在の市政運営は現場を軽んじているのでは。

答 市の将来を考えた時、職員数の削減は本庁も地域局も同様。全体的な組織の縮減を図ろうとしたものであり、現場を軽んじている印象を与えたのだとすれば残念。



建て替えの想定をしていない駐車場が手狭な築30年の本庁舎

問 地域局における人員配置や予算と権限の在り方をどう考えるか。

答 「地域局」や「本庁」の視点で組織や予算、権限を判断するものではない。地域性だけに捉われることなく、市民全体で意見を出し合い協力していくことが重要。

問 今後本庁舎建設を想定せず、地域局庁舎を立て替えていくのであれば、本庁をスリム化し地域局の予算と権限を手厚くするべきだ。

答 本庁の人数を減らせれば前に進めなくなる

問 地域局を縮小するのではなく権限を持たせるべきだ

Q 地域づくり活動補助金が有効に使われていないのでは

A 次年度に向け周知、相談していく

●地区交流センターについて

問 地区交流センターの事業評価について、前年度との比較や他施設との比較ができるよう、数値化して評価してはどうか。

答 提案を受け、どういう評価が有効か検討を重ねていく。

問 活動が軌道に乗るまで、プロジェクトごとにコーディネーターを配置してはどうか。

答 全体の職員配置バランスをみながら、プロジェクトチームでの検討も含め慎重に検討する。

問 地域づくり活動補助金が有効に使われていない。柔軟に利用される仕組みにできないか。

答 申請割合は47.1%と低い状況だ。次年度以降は、補助金の周知、申請の相談に乗るなどし、補助金交付要綱もあるので申請方法についても検討していく。

●非常勤職員の処遇について



菅原正志議員



Q 地域づくり活動補助金が有効に使われていないのでは

A 次年度に向け周知、相談していく

問 地区交流センターの事業評価について、前年度との比較や他施設との比較ができるよう、数値化して評価してはどうか。

答 提案を受け、どういう評価が有効か検討を重ねていく。

問 活動が軌道に乗るまで、プロジェクトごとにコーディネーターを配置してはどうか。

答 全体の職員配置バランスをみながら、プロジェクトチームでの検討も含め慎重に検討する。

問 地域づくり活動補助金が有効に使われていない。柔軟に利用される仕組みにできないか。

答 申請割合は47.1%と低い状況だ。次年度以降は、補助金の周知、申請の相談に乗るなどし、補助金交付要綱もあるので申請方法についても検討していく。

●非常勤職員の処遇について



十字西交流センターまつりの様子

問 官製ワーキングプアを生む懸念はないのか。

答 来年度からの報酬の引き上げに向けて現在作業中である。

問 2020年度からの会計年度任用職員制度への市の取り組みは。

答 国や他自治体の情報を収集し、県に合わせ、来年9月の条例案上程を考え検討していく。

●公平委員会について

問 しっかりと機能しているのか。

答 正規・非常勤を問わず、職務に専念できるよう、気軽に相談できる体制をとっている。

問 昨年7月の豪雨の際に大森地域を中心に大量の災害ごみが発生し、その処理に市民をはじめ、市関係事業者など多くの方々のご苦労があったと聞いている。現在、市では「災害廃棄物処理計画」を策定中のようなのだが、その内容について伺う。

答 災害廃棄物の発生に備え、30カ所ほどを仮置き場とし、災害時にはその中から選定する。分別については5種類から8種類を想定している。便乗ごみ対策については、受け入れられないごみを周知するほか、搬入許可証を発行し、被災者以外から搬入できない仕組みを検討する。

問 スマートフォンを利用して市民から災害情報を提供してもらおうシステムを構築してはどうか。

答 映像により、リアルに現場の状況を知ることから



仮置き場に搬入された災害ごみ

Q しっかりとした災害ごみ処理計画が必要ではないか

A 今年度中に策定する

市民の皆様から情報提供をいただく方法について探っていく。

問 農地の荒廃が地域の衰退につながると思うが、未復旧農地の対応はどうなっているのか。

答 国の補助事業対象箇所については、来春の作付けまでの完了を目指し発注していく。入札不調などで遅れた場合であっても、31年度中には完了できると考えている。市単独補助事業については、新年度に予算化を見込んでおり、被災農家へのきめ細やかな対応と情報提供に努めていく。

播磨博一議員





山形 健二議員



### Q 地域おこし協力隊検討のその後は

**A** 来年度には体制を整え導入したい

●地域おこし協力隊について  
前回の一般質問でも地域おこし協力隊をなぜ導入しないか質問し、国の動向も注視して検討を進める」とのことだった。検討のその後を伺う。

●現在、地域おこし協力隊設置要綱や受け入れの手引などの検討を行っている。来年度には体制を整えられるよう準備を進めている。制度の導入にあたっては、地域が求める人材と隊員として活動を希望する方々とのマッチングが重要と言われているので、今後も、県内外における先進的な事例について情報収集しながら、導入すべき事業や優秀な人材の確保に向け検討を進めていく。

●年明けには政策決定をしながら体制を整え、新年度から制度を導入していきたい。  
どのような事業に取り組んでいくかはこれから検討する。全庁でアイデアを募るところから始めなければならぬと考えている。

#### ■その他の質問

●新電力の導入による公共施設の経費削減について  
●消防団員の報酬について



総務省の地域おこし協力隊PRポスター

●来年度には体制を整えるということだが、地域おこし協力隊に具体的にどのような事業を任せるのか。考えを伺う。



青山 豊議員



### Q 実験農場研修修了生の受け皿構築を!

**A** 意向調査結果を踏まえて取り組み

●よこて農業創生大学事業について  
JA秋田ふるさととの「園芸作物振興に関する連携協定」の具体的な取り組みの中で、就農支援による人材育成をどう図っていくのか伺う。

●「園芸を経営の柱とする農業者の育成」と「就農後のフォローアップ」を重点項目と位置付け進める。JAや県と連携を図りながら、新規就農者をはじめとした農業後継者支援に取り組んでいく。



就農につながる手厚い支援が望まれる

●実験農場の研修期間の2年は短いと思う。修了生に対する受け皿の構築が必要だと思いがどうか。

●自主財源の確保は、地方交付税が減少していることから、持続可能な市政運営のためにも重要課題と捉えている。各課所でアイデアを出し合いながら、継続的に取り組んでいく。

●自主財源について  
各施設の維持管理や整備等の市民要望に応じていくために、自主財源確保の取り組みを今以上に取り組んでいく。

●すでに取り組んでいるものや、検討中のもの、さらには全国の事例をデータベース化し、庁内で共有する必要があるのではないか。

●今年中に農業法人等の意向調査をしたい。その結果を踏まえて、取り組んでいく。

●非常に有効な策だと認識した。やる方向で進めていきたい。



鈴木 勝雄議員



### Q 園芸作物等産地交付金のかさ上げを

**A** 追加配分を受け昨年を上回る予定だ

●園芸振興推進会議で現在検討している。健全な土づくりと施肥

●JA分析センターへの市の対応策について。

●土壌改良に対する市の支援は。

●有機質肥料の投入が栽培に大きく影響するので、支援強化を検討する。

●JA分析センターへの市の対応策について。

●園芸振興推進会議で現在検討している。健全な土づくりと施肥

●平成30年度の経営所得安定対策における産地交付金については、10月に追加配分を受け、29年度を上回る予定だ。交付対象作物を重点20品目に限定したことにより、産地づくりへ重点化した支援が出来るものと考えている。

●有機質肥料の投入が栽培に大きく影響するので、支援強化を検討する。

●JA分析センターへの市の対応策について。

●園芸振興推進会議で現在検討している。健全な土づくりと施肥

●平成30年度の経営所得安定対策における産地交付金については、10月に追加配分を受け、29年度を上回る予定だ。交付対象作物を重点20品目に限定したことにより、産地づくりへ重点化した支援が出来るものと考えている。



農業振興のため さらなる対策を

●コストの低減に向け、土壌診断と肥培管理による農産品の品質向上等に結び付けたい。  
●30年産米が減収したことに対する市の対策は。

●概算払いに加え追加払いも実施されているため、昨年度並みの収入が得られているものと考えている。  
●受動喫煙防止対策のための施設整備が必要である。今後の取り組みについて伺う。

●公共施設の受動喫煙防止対策について、利用する市民の皆様への配慮等を考慮し協議している。

### Q 横手駅東口再開発の公共施設は

**A** 図書館を核とした複合施設を検討したい

●本来の機能に加え、これまで以上に多くの市民の皆様が気軽に立ち寄れるような機能、開放型の



地域局機能と図書館、消防署が一体となった複合施設 平鹿新庁舎

●財産経営推進計画について  
個別施設の計画について伺う。

●公共施設における広域連携については、建物の有無だけではなく、規模や機能などに着目した役割分担という観点も取り入れながら検討する。また、観光等を中心に、目的に応じた事業連携を行うべきだが、広域的なサービスの維持・向上という視点から公共サービスの在り方について検討する。

●横手駅東口再開発事業について  
公共施設として庁舎・公営住宅・市民プールなどを建設する考えはないか。

●アリーナ等の広域連携について  
県南自治体との広域連携について伺う。

●駅前には、公共交通を利用する方が多いことと、アンケートやワークショップの結果を参考に、人が集い、にぎわいを生み出す施設として、市民の皆様が成長する機会を得られる、図書館機能を核とした複合施設を検討したい。

●どのような図書館を建設したいのか。

●本来的機能に加え、これまで以上に多くの市民の皆様が気軽に立ち寄れるような機能、開放型の

菅原 亀代嗣議員





よこて農業創生大学事業狐塚エリア(旧大雄中学校)に建設中の6次産業化支援施設

# 横手市園芸振興拠点センター 設置条例を可決し、附帯決議案

横手市議会ホームページ産業建設常任委員会のページがご覧いただけます



委員から賛成の立場で、「条例そのものは示されているとおりだが、営業許可取得に努力し、あわせて、アクションプランを早急に示して欲しい」との討論があった。  
起立採決の結果、全員賛成により原案のとおり可決すべきものと決定した。  
本案可決後、委員から「6次産業化支援施設での営業許可取得の手法について調査研究をすること」及び「アクションプランの素案を早期に示すこと」の陳情があった。

- ◆横手市園芸振興拠点センター設置条例(よこて農業創生大学事業)
- 問 グラウンドを農場にするため土の天地返しをしたが、土壌の状況に支障はないか。
- 答 土壌の栄養が低く、改良が必要だ。県立大学の指導を仰ぎ、安価な形で進めていく。
- 問 6次産業化を進める上で販売の営業許可を持たない施設で、どうやって市場の反応を探っていくのか。
- 元々営業許可を持っている人だけの開発施設になるのではないか。
- 答 将来的な利用者の営業許可取得については、視野に入れていないわけではない。



道路拡幅等の陳情箇所を視察(旧鳳中学校北側)

し、議会や関係機関との意見交換を十分に行い策定すること」の2項目を求める附帯決議(案)が提出された。  
附帯決議(案)について、起立採決の結果、全員賛成により附帯決議を付すことに決定した。  
◆横手市地域種苗センター設置条例  
問 実験農場に地方創生先行型交付金で設置した研修棟などは、当初の設置目的から変更は生じるのか。  
答 引き続き研修施設として機能するため、設置目的は変わらない。

- ◆道路の拡幅とガードレール設置についての陳情  
現場を視察し、危険な箇所だということにはわかった。今年度、検討しているガードパイプ設置や公文書館の計画もあり、長期的な視点で考えるべきとの意見があった。  
起立採決の結果、賛成多数により採択すべきものと決定した。(菅原 正志)
- ◆天下森ふれあい農園の指定管理者の指定について  
起立採決の結果、全員賛成により原案を可決すべきものと決定した。
- 問 天下森振興公社は、狹半内エリアの複数施設を管理している。一括して指定するという検討をしたことはあるのか。  
答 これまでではない。今後課題を整理しながら検討したい。
- ◆横手市国産材需要開発センターの指定管理者の指定について  
指定管理者を指定する側の副市長が社長を務めているというのは社会的に理解が得られにくいと思う。市が目的としている事業をきちんと実施できる人がなるべきではないかとの意見があった。

産業建設常任委員 | 菅原正志・本間利博・奥山豊和・播磨博一・鈴木勝雄・菅原亀代嗣・佐藤誠洋・佐藤忠久

# 指定管理案件 すべて可決

横手市議会ホームページ厚生常任委員会のページがご覧いただけます



クリーンプラザよこてを視察

- ◆30年度一般会計補正予算(第4号) 学童保育施設が増えているのに対し支援員が不足する状況が続いているが、今後に向けた対応はどうか。
- 答 全国の自治体では、支援員の配置基準を見直すよう国へ要望しており、12月中旬に国の方針が決まる。市ではその後具体的に検討する予定だ。
- ◆横手市大森町生きがい創作館の指定管理者の指定について
- 問 施設の利用状況はどうか。利用者やスタッフからは、どのような声があるのか。
- 答 年間2300人ほどの利用がある。陶芸教室や料理教室、木工教室等利用者に人気があり、皆さんが熱心に学んでいる。
- ◆横手市山内ほっとパレス「ゆーらく館」の指定管理者の指定について
- 問 非常に安い入浴料だが経営的に大丈夫なのか。
- 答 山内地域外の方も含め、年間9千人から1万人ほどの利用者がいる。高齢者福祉のための入浴サービスという位置付けで安い料金を設定し、社会福祉協議会の業務を考慮して指定管理料を算出している。
- ◆横手市立県南愛児園「ドリームハウス」の指定管理者の指定について
- 問 子どもたちのプライバシーを守る点が非常に難しいと聞いていたがどうか。
- 答 国が示す社会的養護の方向性では、家庭的な環境で子どもたちを育てていくという方向だ。愛児園の中でも仕切りをするなど配慮をしているが、まだ十分とは言えない状況である。



学童保育での生活の様子(げんキッズよこてきた)

- ◆横手市サンハイツの指定管理者の指定について
- 問 行政と指定管理者との打ち合わせはしっかりなされているのか。
- 答 市の母子自立支援員が年に一度入所者と面談している。指定管理者とも施設の不具合箇所なども含めて随時打ち合わせをしている。
- ◆安全・安心の医療・介護の実現と、夜勤改善と大幅増員を国に求めることについての陳情  
委員より賛成の立場で、「人手不足により現場に負担がかかっているという現実は深刻であり、それを改善せずに放置することは、ひいては患者、利用者にも負担をかけることになる」との討論があった。  
起立採決の結果、全員賛成により採択すべきものと決定した。
- ◆75歳以上の後期高齢者医療自己負担を2割にしないことを国に求めることについての陳情  
委員より賛成の立場で、「年金はどんどん下がっており、老後破産といった言葉も出てきている。そのよくな時に医療の保障が無ければ医療機関の受診が阻害され、結局は手遅れになり医療費もかえって膨大になるという結果につながる。せめて今までどおりと欲しいということだ」との討論があった。  
起立採決の結果、全員賛成により採択すべきものと決定した。(高橋 和樹)

厚生常任委員 | 高橋和樹・青山 豊・山形健二・寿松木 孝・立身万千子・木村清貴・小野正伸・佐藤清春



斜面が崩落した横手公園スキー場（9月10日視察）

# 横手公園スキー場廃止 条例改正案 否決

横手市議会ホームページ総務文教常任委員会のページがご覧いただけます



◆横手公園スキー場を廃止しようとする横手市都市公園条例の一部を改正する条例

問 昨年の大雨災害を受け、3年後に廃止する計画を前倒しして廃止しようとする一番の理由は何か。

答 斜面への湧水が確認され、利用者の安全を確保できないこと。また、緑地休養センターならびに大谷地山荘が老朽化により腐食し、安全を確保できないことが挙げられる。

問 市民に丁寧に説明し、納得してもらおう努力をしたのか。

答 3年後の廃止については横手市財産推進計画（F・M計画）策定により一般的に周知されているものと考えていた。今回の廃止については、スキー団体、学校関係者への説明を優先し一般市民への説明は行っていない。

委員より、「議会報告会での意見を含め継続して欲しいという地域の要望を聞くにつけ、市民とのコンセンサスが取れていない印象を受けた。廃止するにしても一度仕切り直しをして、時間をかけて市民に納得いただけるような対応を希望し反対する」とする反対討論と、「横手公園

スキー場の廃止が早急であるという意見はもっともではあるが、理解してもらったための手段、時間を考えると非常に難しいと考える。行政は前向きに進めるのが基本であり、当局に丁寧な説明をお願いし賛成する」とする賛成討論があった。

起立採決の結果、賛成少数により否決すべきものと決定した。

◆横手市行政組織条例等の一部を改正する条例

問 生涯学習課とスポーツ振興課が教育委員会に移管となるが、まちづくり推進部で取り組んだこれまでの施策の評価と今後の位置付けをどう考えるか。

答 生涯学習課については、地区交流センターを立ち上げることができ、導入の部分については成果があった。スポーツ振興課についても、市民の健康づくりや地域づくり、市内外との交流促進等、各部署との連携の下の地ができたと感じている。2課が教育委員会に戻ることに伴い、課題であった事務手続きの煩雑さを解消し、小中学校やスポーツ少年団との連携など両課の根底にある目的を実現するため、今一度原点に立ち返って力



設置条例が可決した十文字地域統合小学校の広大な建設予定地（十五野地区）

を注いでいきたい。

◆30年度一般会計補正予算（第5号）ふるさと納税PR事業における返礼率について、総務省の指導により見直すことの影響は。

答 お米やリンゴなどの農産物が大変喜ばれているが、大半が返礼率30%を超える状況にあり、30%以下の物は数品目しかなかった。率を下げることについては、リピーターの方も多く、横手産品の良さを口コミ等で広げていただければ、影響は少ないものと考えている。

（菅原 恵悦）

総務文教常任委員 菅原 恵悦・加藤 勝義・大日向 香輝・高橋 聖悟・塩田 勉・佐々木 喜一・遠藤 忠裕・土田 百合子

## 議会広報のさらなる充実に向けて

11月5日 埼玉県戸田市  
11月6日 千葉県柏市・埼玉県志木市

これまでの紙面リニューアルの経緯や紙面づくりの工夫点、編集体制や議員の役割分担、議会内での位置づけ等、議会広報の取り組みについての視察研修を行った。

市民の声を反映させる手段の一つである「議会モニター制度」については、読み手の立場に立った紙面づくりに一定の効果があるものの、継続的なモニターの確保が課題になっている。

議会だよりの配布方法については、人口増のベッドタウンで低い自治会の加入率が共通の課題となっていることから、新聞折込の他、フリーペーパーのように公共施設や人が多く行き交う場所に置くなど、多様な手段を用いている。

### ポイント

- 戸田市議会 市のシティセールスのターゲットが子育て世代であることから、表紙の写真は子ども中心。各常任委員会がテーマに沿って行った活動成果を報告。
- 柏市議会 編集作業を外部委託。議会で話題になった案件を1つピックアップし、文章中心ではなく写真やイラストを多用することで、民間の発想による「読み見せる」市議会だよりにシフト。
- 志木市議会 表紙の写真は、議会中話題になったテーマに出来るだけ沿う題材を議員自らが撮影。



視察を終えて

議会活動を広く市民にお知らせするために、いかにして目に止まる議会だよりにしていくかという切実な想いが、多様な取り組みの原動力になっているように思う。各議会の興味深い取り組みを参考にしながら、これからは分りやすい表現に、市民と双方の紙面づくりに努めていきたい。広報広聴の充実を突き詰めていくことあるということを感じた。

（奥山 豊和）

## 議会の通年制と政策提言について

11月5日 神奈川県厚木市  
11月6日 福島県会津若松市  
11月7日 福島県福島市

厚木市議会では、通年制導入について視察。平成23年10月に、議長から議会運営委員会に通年制の実施について諮問がなされ、検討を重ねた結果、平成27年1月から通年制を導入していた。

会津若松市議会では、政策形成サイクル、政策討論会、議員間討議を視察。市民の意見を元に課題を視察。市民の意見を元に課題を視察。市民の意見を元に課題を視察。

福島市議会では、通年制の導入、市長等への政策提言を視察。平成26年8月から議員の任期に合わせた通年制を導入。委員会所管事務調査で発見した課題を元に、積極的に政策提言を行っていた。

### ポイント

- 厚木市議会 通年制の導入にあたっては、制度導入によって考えられる影響や課題などを市長部局と時間をかけて協議していた。
- 会津若松市議会 政策討論会の調査課題は、「市民との意見交換会」で出された意見を整理し、そこから問題を発見して課題を設定していた。
- 福島市議会 各常任委員会では1つのテーマについて約1年かけて調査を行い、市長等への政策提言書をまとめ報告していた。



視察を終えて

通年制導入の検討をする場合は、議会内だけでなく、市長部局の合意が必要であり、時間をかけた協議が必要だと感じた。

また、議会は市民と結びつき、市民の意見を後盾にした活動をするということによって、政策提言は揺るがないものになるということにも気づかされた。

今回の視察は大変参考になり、今後の議会運営に生かしていきたい。

（遠藤 忠裕）





# 議会報告会・意見交換会

かだってみた  
議会報告会  
しゃべってみた  
意見交換会

まんずいがあった



10月15日から26日までの間、市内24会場へのべ512人の市民の皆様におこしいただきました。皆さんからいただいた意見は、これからの委員会活動に生かしていきます。ここでは一部を抜粋してお知らせします。くわしくはホームページをご覧ください。



市民の財産である市営温泉施設は、それぞれの地域が必要と判断して建てたもののなのに、簡単に民間に譲渡してしまったのは、行政の責任放棄だと思う。

温泉施設は地域活性化や地元雇用などの効果があった。議会でも判断が分かれたが、赤字施設だということで譲渡することになってしまった。



10月19日 福地地区交流センター (3班)

議会だよりを女性として興味深く読んだ。視察報告のページに議員のコメントが載っている。女性が市政に関心がないと言われるが、こういうことを発端に興味を持ち、議員と市民の距離が縮まると思う。

議会だよりは手作りで、中身の一言一句、文章も自分達で考えてやっている。引き続き分かりやすい紙面づくりを心掛けていきたい。

自助、共助、公助のうち、市は防災マップを配付したので自分で逃げろというのは自助。共助が大切だ。地域で話し合えというのは簡単だが、誰が音頭をとっていくのか。

行政の避難指示は万全ではない。こういう時にどう対応すべきなのか、地域の皆さんと共有していく必要性を感じている。

福祉施設の介護職員が少ないと聞く。賃金が少ないからということだが非常に不安を感じる。母も施設に入るのに難儀した。市は何か対策をとっているのだろうか。

資格はあっても辞めてしまう人が多いようだ。介護系の学校で資格を取る人は多く、本来であれば足りるはずだが、実際就職しても環境的に厳しく離職するようだ。

若い人や女性の多くの人にも参加してほしいなあ



10月22日 平鹿生涯学習センター (4班)

地域の方達の意見も聴けてよかった!



水路の改修を地域局にお願いしても、予算が無いと言われる。何年も前からお願いをしているのに反応がない。昔に比べて地域局の対応が遅くなったと感じる。

優先順位や建設業の人手不足の問題もあるが、反応が欲しいということは住民の方から見れば当然の話だ。緊急性のあるものは、地元からどんどん声を上げてください。

グループ形式でたくさん意見が言えた!



高齢者の雪おろし事業で、共助組織は業者登録はできるが、地元での作業は有償ボランティア扱いとなり、補助対象にならない。出稼ぎして自己資金を稼いで来いというようなもの。見直しを求めたい。

意見交換の時間が多くとれてよかった



地域づくり活動補助金の申請は、書類が多くて大変だった。さらに指定日に本庁に出向いてプレゼンをした。その時言われたのが費用対効果ということ。伝統芸能や伝統技術は無形の財産であり地元の宝。人を育てるのに費用対効果と言われると太刀打ちできない。ちょっとハードルが高く地域が委縮している。市民目線に立って優しい行政であって欲しい。

地域づくりやにぎわいは、数字にできるものとできないものがある。仕事がある人も本庁まで行かなくてはいけない。行政的なやり方でいかなものかと思っている。



10月16日 山内公民館 (2班)

## 議 場

### 植田小学校

#### 6年生のみなさん

12月3日(月)、6年生9名が12月定例議会一般質問を傍聴しました。

●**児童の皆さんからの感想**  
議会の第一印象はこわいと思ったけど、身の回りのほとんども、この話し合いから始まっていることに気付いた。



● 少子高齢化の話聞いて、学校で取り組んでいる「地域に元気を届けようプロジェクト」も大切な活動だということに気付いた。  
● 人口を増やすために自分のふるさとに貢献して、横手にふさわしい人になりたい。

## よ う こ そ

### 浅舞小学校

#### 6年生のみなさん

11月6日(火)、6年生45名が議場などを見学しました。

● **児童の皆さんからの感想や意見**  
● 議場は緊張感があった。  
● 市民と市議会と市長が一緒に、より良い横手市にしていることに興味を持った。  
● 学校の教室にエアコンをつけてほしい。



● **もしも議員になったらしてみたいことは?**  
● 市内に大学を建てて、学力を上げることを提案したい。  
● 勉強しやすい学校の環境を整える方法を聞いてみたい。

# 議会の主な動き

## 10月

- 1日 広報広聴委員会広報分科会
- 5日 正副委員長会議
- 12日 広報広聴委員会広聴分科会
- 15日 議会改革推進会議、議会報告会・意見交換会(～26日)
- 23日 議会運営委員会、全員協議会
- 24日 全員協議会(行政課題説明会)
- 25日 秋田県後期高齢者医療広域連合議会

## 11月

### 2日 県南地域市議会議員研修会(湯沢市)



湯沢市、大仙市、仙北市、横手市の市議会議員が一堂に会し、「公共施設の最適化に向けた議会としての関わり」について研修会を開催しました。

- 5日 広報広聴委員会広報分科会行政視察(～6日)、議会運営委員会行政視察(～7日)

- 6日 浅舞小学校6年生が議場等を見学

### 8日 秋田県市議会議長会議員研修会(秋田市)

県内の市議会議員が研修会を行いました。大館市教育長 高橋善之氏より「大館ふるさとキャリア教育」と題し、ご講演いただきました。



- 大阪府大東市議会行政視察受け入れ
- 産業建設常任委員会協議会
- 13日 厚生常任委員会協議会、Y8サミット創快横手市議会リハーサル、FM放送収録
- 14日 全国市議会議長会研究フォーラム(栃木県宇都宮市)
- 15日 全国過疎地域自立促進連盟総会(東京都)
- 16日 議会改革推進会議、Y8サミット創快横手市議会
- 20日 正副委員長会議、議会運営委員会、広報広聴委員会広報分科会、全員協議会(議案説明会、行政課題説明会)
- 21日 広報広聴委員会広聴分科会、消防議員連盟研修会
- 26日 秋田県市議会議長会臨時会、県知事との行政懇談会
- 27日 市議会12月定例議会(～12月12日)、タブレット端末活用推進会議
- 29日 スマートインターチェンジ整備促進議員連盟、広報広聴委員会広報分科会

## 12月

- 3日 議会運営委員会、広報広聴委員会広聴分科会 植田小学校6年生が議会を傍聴
- 5日 議会改革推進会議
- 6日 総務文教・産業建設・厚生常任委員会協議会
- 10日 議会運営委員会
- 13日 広報広聴委員会広報分科会
- 14日 植田小学校「横手の未来を考えよう」FM収録



「横手市活性化プラン」の作成に向け、横手市の現状や課題について学習している植田小6年生。児童のみなさんと市議会議員が横手市の未来について語り合いました。

- 18日 広報広聴委員会広報分科会、福島県桑折町議会行政視察受け入れ
- 19日 厚生常任委員会行政視察(～21日)
- 20日 FM放送収録
- 21日 広報広聴委員会広報分科会
- 25日 広報広聴委員会広報分科会 市民と議会の懇談会(館合地区つきの木会女性部)

### 表紙の写真

増田中学校生徒会による挨拶運動の様子  
(撮影：加藤 勝義)

# シリーズ Y8 ワイエイト vol.3

我伝～広がる 繋がる 僕らの思い

## 増田中学校生徒会執行部

私たち増田中学校では、生徒会テーマ「我伝(がでん)」、自分の思いを他者に伝えることを軸に生徒会活動を行ってきました。

まず、全校生徒を対象に「創快アンケート」を行いました。生徒会テーマに関する項目はもちろん、Y8サミットで出た「創快宣言の原点に戻る活動」の案を基に、いじめに関する項目をつくりました。その結果から、よりよい学校生活を送るためのヒントを探し出し、その後の活動につなげることができました。

また、Y8サミット創快横手市議会でも報告させていただきましたが、県の生涯学習講座「スマートカレッジ」で、本校の生徒が講師となって増田の蔵を案内しました。蔵の説明とあわせて、蔵という伝統文化に対する思いや郷土愛も伝えることができました。

今後も増田中の伝統を守り、よりよい学校を創るために新しい風を吹き込み、挑戦する気持ちをもって学校生活を送っていきたくと思っています。



増田中学校生徒会執行部の皆さん

## 編集後記

### 新年あけましておめでとうございます

昨年の議会報告会で「議会だよりが良くなっているね」という声が届き、とてもうれしく励みにつながっております。今年の干支は「イノシシ」。突進する勢いで、議会がもっと身近に感じていただけるよう努力してまいります。(土田 百合子)

### ◆ 広報広聴委員会広報分科会 ◆

分科会長 奥山 豊和 副分科会長 山形 健二  
委員 加藤 勝義 委員 播磨 博一  
委員 高橋 聖悟 委員 土田百合子